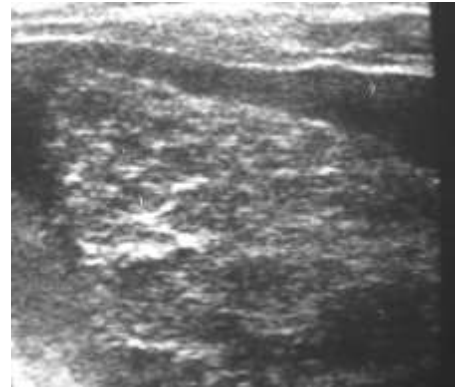


肝硬変



<エコーでチェックするポイント>

1、肝左葉腫大・右葉萎縮

両葉が萎縮する場合もあります。

2、肝表面の凹凸不整

3、肝実質エコーの粗雑化

大きな再生結節は低エコーとして描出されます。

4、肝内脈管（肝静脈・門脈）の不整狭小化

<他に得られるエコー所見>

・ 脾腫

・ 門脈側副血行路

左胃静脈、傍臍静脈、胃腎短絡路、脾腎短絡路の拡張がみられる場合があります。

・ 腹水

少量の腹水は、肝下面と右腎上極の間のモリソン窩に描出されます。

・ 胆嚢壁肥厚

門脈圧亢進や低アルブミンによる浮腫性変化です。

・ 肝癌

<鑑別すべき疾患>

・ 再生結節と腫瘍性病変

単発の低エコー結節は細小肝癌と、多発の場合には転移性肝癌と鑑別する必要があります。

・ 脾腫をきたす疾患

悪性リンパ腫、白血病、特発性門脈圧亢進症、Budd-Chiari 症候群などが脾腫をきたす疾患です。

<関連するサイン>

flag sign meshwork pattern sonolucent layer

satellite nodule

[k]

keyboard sign

<腸閉塞、小腸>

拡張した小腸内で kerckring 皺壁がピアノの鍵盤状 (keyboard) に類似した像を呈することを言います。

kerckring 皺壁の密度の差により、十二指腸から空腸の拡張では典型像を呈しますが、回腸ではこの所見は乏しくなります。

[l]

lateral shadow

<胆嚢の屈曲部、胆嚢壁と肝との境界面、被膜形成の肝細胞癌、肝嚢胞>

辺縁平滑な球状腫瘤を呈する場合や、組織間の音速に大きな差がある場合に超音波を入射すると、接線方向にビームの屈折が生じて、腫瘤の側方から後方に音響陰影を生ずることがあります。これを lateral shadow(側方陰影)と言います。

[m]

marginal hypoechoic zone(halo)

<肝細胞癌、転移性肝腫瘍>

腫瘤辺縁にほぼ均等に認められる辺縁低エコー帯を言います。

腫瘍細胞が周辺肝組織よりも高密度に配列しているため、その膨張性発育のために非癌肝組織が圧排され、線維成分の凝集も伴い被膜構造を形成します。

転移性肝癌では厚みがあり、多くは不明瞭となります。この場合の辺縁部分は転移性の細胞浸潤によるものです。

marginal strong echo

<肝血管腫>

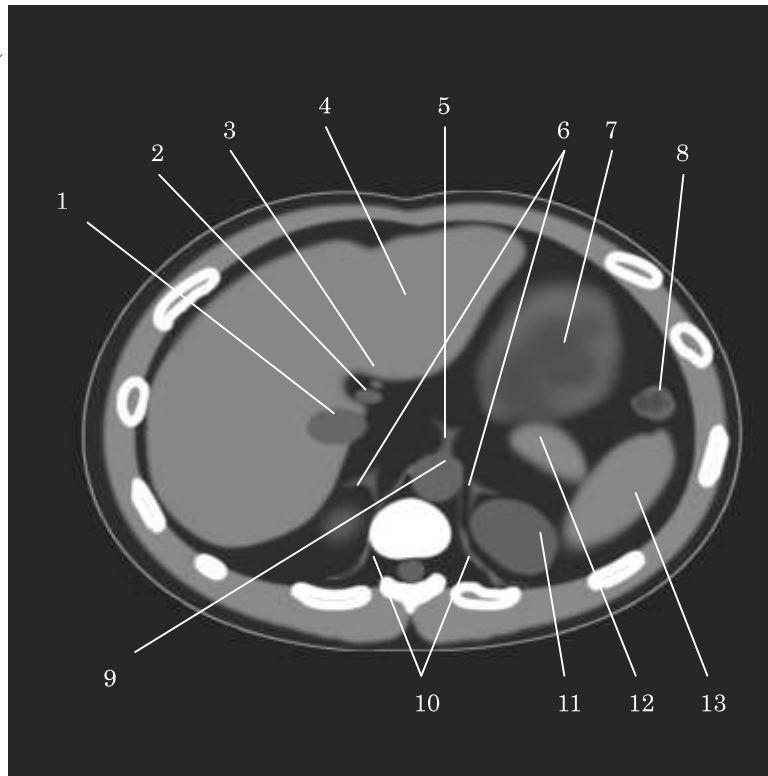
主に低エコー型の肝血管腫において、腫瘤辺縁に認められる高エコーの縁取りを言います。

ascites	腹水
asplenia	無脾
asymmetry	不均整
asymptomatic	無症候の
atresia	閉塞
atrophic	萎縮した
attenuation	減衰
atypical	異型の

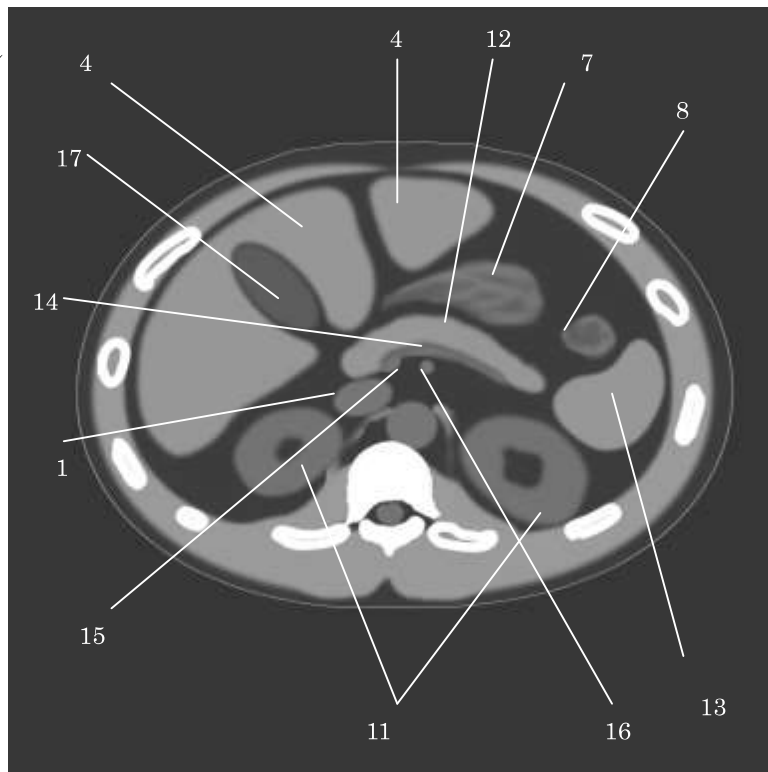
[b]

back pain	背部痛
beaded appearance	数珠様
beam	ビーム、音速
benign	良性の
Bertin's column	ベルタン柱
bilateral	両側の
bile	胆汁
bile duct	胆管
biliary	胆道
biliary dyskinesia	胆道ジスキネジー
bilirubinemia	ビリルビン血症
bleeding	出血
blunt	鈍
blurring	不鮮明化
body	体部
border	辺縁
bottom echo	底面エコー
boundary	境界
bowel	腸管
BPH : benign prostatic hyperplasia	前立腺肥大
branch	枝
bright liver	高輝度肝

B のレベル



C のレベル



- 1 : 下大静脈 2 : 門脈 3 : 総胆管 4 : 肝臓 5 : 腹腔動脈 6 : 副腎
7 : 胃 8 : 横行結腸 9 : 大動脈 10 : 横隔膜脚 11 : 腎臓 12 : 膵臓
13 : 脾臓 14 : 脾静脈 15 : 上腸間膜静脈 16 : 上腸間膜動脈
17 : 胆嚢